

1 研究主題

支持的学級風土を醸成し自治の力を高める学級をめざして
～仲間づくり・学級づくり～

2 研究の概要

- 支持的学級風土を作るために有効な方策や手立てについて講演を聞き、実践に向けて理解を深める。
- 講演内容を受け、部員各自が実践に取り組む。
- 公開授業をもとに、学級づくりや議題選定のしかた、指導に出るポイントなどについて協議する。

3 研究の実際

第 1 回目の研修会は、新潟市立葛塚小学校教頭 三條貴之先生から、学級づくりや学級会のもちかたについての講義をしていただいた。新学年がスタートし、自分の学級にどんな方向性をもたせたいかという悩みを抱えていた時期だったので、講師先生の学級づくりのノウハウや議題選定の仕方についてのお話はたいにうなずくところがあり、参会者全員が関心をもって聞くことができた。

第 2 回目の研修は、嵐南小学校 6 年生 金子剛志教諭の学級活動「児童会まつりの活動グループ作りは自由にするか、くじ引きにするか」についての学級会であった。授業公開校は本年度新設の学校である。したがって、6 年生の当学級も 3 校の児童が集まり新たに編成された学級である。6 年生ながらもこの学級集団では初めての児童会祭りという状況であったので、子どもたちの生活に非常に密着している議題となり、活発に意見が出された。事前の絞り込みが足りなかったので、「自由にする」の受け取り方が子どもたちそれぞれで違い、「AorB」スタイルがはっきりしない部分もあったが、自分の思いをそれぞれに表出できる会になった。指導者の三條先生は第 1 回目に講義していただいた先生であったので、的確にご指導いただけた。先生からは授業学級の雰囲気の良いさをお褒めいただき、議題選定の大切さや指導に出るポイントなどをご指導いただいた。



4 成果と課題

年 2 回の研修を、同じ指導者の先生による講義と公開授業指導という形にした。このことによって、第 1 回目の講義で学んだことを大切にして、日々の学級活動実践を深めることができた。

教師が一言も口を挟まないのが、よい学級会だというイメージが持たれがちだが、そうではなく、その時その時に合った指導助言が必要だし、教師が出ることとを恐れないで指導にあたってほしいと教えていただき、勇気のもてる研修になった。

これからの子どもたちは、特別活動で培った力を生かし、人間関係を構築していくことが必要になってくる。その意味でも特別活動の担う役割が大きいのだと改めて実感することができた研修となった。